

【アメリカ】2020年民主党政綱のアジア太平洋に関する記述

民主党は、2020年8月17日から8月20日にかけて党大会を開催し、大会2日目の18日には、政策綱領を採択した（民主党政綱について、本誌 pp.16-19 を参照）。政策綱領は全10項目であり、「米国のリーダーシップを刷新する（Renewing American Leadership）」と題する最後の項目では、外交関連の指針を打ち出した。

この項目は、さらに4つの部分（「米国外交を再活性化する（Revitalizing American Diplomacy）」「米軍を21世紀の実情に即したものに改変する（Transforming Our Armed Forces for the 21st Century）」「国境をまたぐ課題の解決に向けて世界の力を結集する（Mobilizing the World to Address Transnational Challenges）」「米国の利益を増進する（Advancing American Interests）」）に分かれており、最後の「米国の利益を増進する」で、アジア太平洋に関する指針が示された。

米国の基本方針については、太平洋国家として、同盟国・パートナー国と連携し、互いに共有する繁栄・安全・価値の増進を目指していくとした。

中国については、経済、安全保障、人権のいずれにおいても、重大な懸念があれば、明確に対抗していくとした。安全保障については、中国の挑戦が「一義的には軍事的なものではない」とする一方、南シナ海での中国の軍事的威嚇に対抗する方針などを示した。

同盟については、この地域の主要な同盟国である日本、韓国、豪州との絆を強化し、タイとフィリピンに対して、諸国民が共有する価値観を重視するよう働きかけていくとした。

北朝鮮問題については、同盟国との連携や持続的な外交を通して、長期的な非核化の目標を目指すとした。また北朝鮮市民に人道支援を行う方針や、北朝鮮国内の人権問題に取り組む方針も掲げた。

その他、東南アジア諸国連合（Association of South-East Asian Nations: ASEAN）のような、この地域の多国間機構に対する米国の関与を再拡大する方針や、インドとの戦略的パートナーシップを維持する方針なども打ち出した。

海外立法情報課・西住 祐亮

・ <https://www.demconvention.com/wp-content/uploads/2020/08/2020-07-31-Democratic-Party-Platform-For-Distribution.pdf>